



本朝櫻陰比事

1756  
1



全又

ら〜す

本朝櫻陰比事

卷一 目錄

郷庭文庫

藏書

一 春風下ぬ乃松系山

春風下ぬ乃松系山  
此の巻は、櫻陰比事、  
むすぶ縁者ある事

二 曇りり晴るる松法師

曇りり晴るる松法師  
年々松法師の御事、  
念佛ありて、  
さる事

三 清草にまゝの同言書

清草にまゝの同言書  
白く血を流す事、  
牛より好む事

四 右靴の中まゝぬ周景

右靴の中まゝぬ周景  
掛あつた事、  
婦人、  
存心、  
乃事









き技掌れりむと引母に教別たはるる  
て神のく接ひとくちら家すくはき神の  
形と八方の積と掛ていゆめ月とあてん  
とされぬあつ家事也未だ子ゆりていありと  
と書と口にならぬと思ふまこと書一めされす  
後中の佛原と神すめしとせられしは神  
乃勝を割し家事とまはせしと家綱上りた  
かし佛とくこの時とてはみ東の大佛原法橋  
とく者六代祖先をを作しと家業  
とくおとくあげしは後小松院應永元年  
十八日乃東大寺のて高なるかしと教  
あかひて誌集とくしと里れ屋と破しと乃

命とと家事男女子或十人乃民のたのび  
たは時少國ぐしとり其言乃儀儀らとて  
是とゆとく籠らきし後山に虫出乃  
神のさへま介のく是とよあしとを勝と作  
け不きとくかれと旅ひ然あ里より是とあ  
め酒と乃彩ひをせしと家事なりと  
り里人す勝みたるてとめしとそん  
まつりいれ先祖是とつりしは授まの  
のうらまはま付神のくは是と物とんえ  
りせえと家事を改めしと勝らんあ  
の折紙あひて佛師がせり通りす  
つす神のあま里れ屋なるはと















つまじと撥婦なれを亭よりとよろひ是れめりし  
とよろひとすれどむの川音入皆目の下りなるとも  
とよろひとすれぬ翁乃酔れはるれは子殿の舞れはる  
とよろひ何れをいふとよとあ後とす子殿の舞に  
とよろひかみ殿をけし一庭をけし一庭をけし  
ゆの時ふ七川の待実翁もつて亭よりとよろひ  
乃氣あつらひ四箱抱ゆてゆけきまを女房戸が  
しとよろひとすれとよろひとすれとよろひとすれ  
娘とされあゆり男と起しとすれとすれとすれと  
しとすれとすれとすれとすれとすれとすれとすれ  
目とすれとすれとすれとすれとすれとすれとすれ  
つらとすれとすれとすれとすれとすれとすれとすれ

なほよみわりのせりしとすれとすれとすれとすれ  
てゆれ物とすれとすれとすれとすれとすれとすれ  
しとすれとすれとすれとすれとすれとすれとすれ  
夫婦はいとすれとすれとすれとすれとすれとすれ  
とすれとすれとすれとすれとすれとすれとすれ  
いよとすれとすれとすれとすれとすれとすれとすれ  
角ハ物果を同果をゆべとすれとすれとすれとすれ  
ねとすれとすれとすれとすれとすれとすれとすれ  
もの物果をゆべとすれとすれとすれとすれとすれ  
ながとすれとすれとすれとすれとすれとすれとすれ  
果んとすれとすれとすれとすれとすれとすれとすれ  
此れなりとすれとすれとすれとすれとすれとすれとすれ



春よなりて在千人の者ども素めつゝもて成り  
の如く一も一も女れなき者か姉妹よかろつゝある  
ひ姫妹よとて女とまゝ人同様にておぼせられよ  
まゝおぼせし所白洲よおぼせたまへ二の國にあり  
て妻付よま付ちを女座を籠り棒と通し  
夫婦つゝまゝ一花の世清成形をとらなれと  
あよあよめでなれ松系とゆり世をと熱んお  
ちかへし事かろつて清法を也お母をれ金よん  
えぞと成る事とて二月は一組つゝ十月が間よけり  
おろりぬ培中れり人見せりて是の各別する  
はる事とつゝ思ふ事とをきり成されと  
蘇のうちに養明な家小僧とて入る事と

諸うおぼせし者なり。毎日事清つゝあり  
しに。いづれも女なりけり申れ八月月よこけ  
ほりし。女房すらわて我男よとて金よ金力  
あなごつて熱くし雨と瀑とせわし事熱ん  
何の因果そもの時男の世清て是のすゝ乃  
しられ難き生合を女とせり事  
しらぬ。も若め。おされつゝ。清更にあり  
りれ衣の山刺をせ整えられはあ若よとせられ難  
仕合也。も後世せ整えられ。の世清人かろつゝ。人合  
かれお申なれを合の助ておの。ちと別。こま  
より拂へしれ清とて。夫婦を東屋よ通し  
しなむいれあり也

五人の巻とよみ抄

むう初乃町は依後の名國よりいひしめて依  
 系又東海富丁に定ぬ抽さひしきと然とぬ  
 して極と信宅して十高まよりめつてお  
 ともこま人是に意をあらけ申申只願して  
 派八百目まで美申と信は男伴を預か信ひ  
 して會れ衆人我也今ま百十にあ海道を長生  
 してから今二十年ころよりあ海親もたかり  
 可儀なりつ子とたかく事かあ海とあ海は  
 頼とすわたり依後より金子式子五百枚持来せ  
 ぶ今れ美用なるた三百年れあくつる俄と衆を  
 信やるとまをいひしるれ信也して芝居なる

〆  
 〆  
 〆

よりかへたぐいまは花山の園通とたかくあ  
 ありともまして京とてとさおとねと  
 うぬやうに思ひぬとお信屋も是と信り信  
 して目とおらねる男は何高貴とも定ぬな  
 く信申れ分限なる人の男子達乃接娘と丸無  
 とも夏のもく海とておをるまはな一世界はあ  
 たらづきなる者おあねとそくと乞とるゆ  
 一はるの富の極はと焼く信事たかくあ人の男  
 ちりりの氣つひひたのい何とらんえぬあ也  
 しては信の信は金子れらうとらんむとさぬく海  
 てあふんとゆとらと念はるたの信時と衆れ極如  
 所よりとそひりて信くあふ引合を又海とれ



拾遺乃後日金人太分金持と後りやのせりんに  
利根の月七割りまてと先借しが後着ひ者あ内  
流して金とをりかきまて比田力取度り合点して  
とあよるあつてこそ存ひかれ利根子種もた  
ず湯きりよ五百あてあつて式子五百あつて切出  
認りし形と清れたとよや後一とあつて金子  
ハ一代の海世のあめがれたとせれり再種あ  
乃こころいほりり妻にてゆき給へやゆよあ  
果あつて誰よゆつたかことなひきまを誰か  
弟ひ給られとすこくと妹ぬんを天うと降  
やかな金れ借りおのく高き乃よりそひお  
よ海す海しきえ後乃とつりとなつりきり金

人と宿りおむての氣をひ縁てと後つづきとこ  
糸金して先よ一物と書せ一車とよと形つ  
重お月中に酒あつてとつりぬ後あそびよりの  
お借屋れ持給りあつて一産よあつてとつて無  
ともめとつて田を者あつてとつて金のつづきも  
の徳よなつてとつてのりおのり大分あつてとつて  
れ給りあつてとつては毒酒と持へ酔の海をれ  
つとつてあつてとつて何の事とたつて私宅に  
ゆりてたあつておつて動すしては金龍目たつり  
うらつてと見れ海りけきと下とれとあつてとつ  
乃通つてとつてとつてあつてとつてあつてとつ  
とつてあつてとつてあつてとつてあつてとつ

七五人卯れ同居せし者まてとあしすめし出  
 され侍食致さるはくはれしも本人若中なれハ  
 づききとさうして所次第難し志なきく侍思  
 案あそえこれゆいお醫者仕せ付しきか侍時  
 へ徳へ一妙業と世れあいに言せらんよれ侍ま  
 して俄に扱へ侍ゆゆに報の破れ草と黒燒子  
 して抜る侍へあえぬ人を腹中へ入て毒と玉指  
 一ねもれぬとあつういよかといふ事し居云乃  
 爲る書にありゆい今け不思議とらん侍也万事れ文  
 物と仕せおさうけ一時是の事おとる者も又何を  
 うとさう者もあはれくく子年とすぬ一  
 々侍よ志なきくあつて病人に志侍し勤さうて

相うららよてさきさうぬとさうして報の破れと  
 けつらあはれくくあし何と事乃思ひとがく侍  
 い者もかめて侍せんうれぬ事あつれ侍仕  
 事よあつ侍と也

大 孫の他人のたぐい

むう 親の町より子相侍れ妙業神教系病園  
 と有板出して賣茶あるは侍中れ卯也在と  
 廣はりしては必由東通う小説れなりげ今千余  
 歳まで後継のたき事と悔し一に本書の徳を  
 もろくさびりれげ書うとお果られ三千目のたけ  
 くれらちよ平養つをに是つて子も致らうて  
 孫もそえに男も也父のたけきを御し



娘は人子抱もりて、涙ぐみに乳をとりて、ひりりとして、  
 そこそそとせ、名も梅松竹松と、年して十三より、  
 母は死なれど、父は又も、母を祀りて、その乳を、  
 ころもれかたなり、ききの、母を見たり、  
 梅のりれ、乳母と、涙ぐみに抱き、  
 とし、つと、と、と、と、と、と、と、と、と、  
 涙ぐみ、母の乳を見たり、  
 母の乳は、  
 も、代か、  
 母の乳は、  
 な、  
 母の乳は、

葛原を付 依りてをり 交り存ちりてし  
め 一日にけりて 系統に 名をこころいし  
よりあひ 狸母と 名をくれ 母に子に 筆 ありて  
の中より まるく 依りて 名をこころいし 清くもつて  
これより 系統に 名をこころいし 延平は 依りて 名を  
きりし び子 細く 胎内にて 母に けりて 依りて 名を  
こころいし 名をこころいし 生れりて 子に 名をこころいし 乳房も 名を  
あはれりて 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし  
この まるく 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし  
竹松よ 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし  
いつて 名をこころいし 依りて 名をこころいし 依りて 名を  
是を 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし 依りて 名を

も 甲しなく 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし  
あへて 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし 依りて 名を  
こころいし 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし 依りて 名を  
依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし  
依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし  
依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし  
依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし  
依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし  
依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし  
依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし 依りて 名をこころいし

しつと後世と教へて佛とていふ事かといふ人  
ももに物ゆゑのしつと人のいふ事かといふ事か  
のいふ事かといふ事かといふ事かといふ事か  
乃あつていふ事かといふ事かといふ事か  
の竹松とていふ事かといふ事かといふ事か  
は分たゆゑとていふ事かといふ事かといふ事か  
ふ入通つたといふ事かといふ事かといふ事か  
る相済む事かといふ事か

七 命の九分目り酒

むらたの寺町通りとて十命とていふ事か  
ちがめていふ事かといふ事かといふ事か  
お。いふ事かといふ事かといふ事か

つとていふ事かといふ事かといふ事か  
相果つていふ事かといふ事かといふ事か  
乃精進ありとていふ事かといふ事か  
た。金銀珠玉具する物とていふ事か  
ゆゑとていふ事かといふ事かといふ事か  
乃後とていふ事かといふ事かといふ事か  
れとていふ事かといふ事かといふ事か  
刺とていふ事かといふ事かといふ事か  
しつとていふ事かといふ事かといふ事か  
乃裁作とていふ事かといふ事かといふ事か  
町れ者かといふ事かといふ事かといふ事か  
るつとていふ事かといふ事かといふ事か

孝子あが 地領する世つとて養ひおはさるる  
是なる世無親の元父のめつりひの者かど儀作  
して見てもよりこびりより 慈親を侍る事  
にたまりて後よりこゝと平養ひつるはるの御  
きかしくは地が赤子なるごとく 物同者別ごとく  
つりひ跡を継ぐ事とはた人の事なりけし  
母と先例のあたる法事とて思われ者あり  
通りかきへてはるをいひて下女の時より持係人  
とて又出年よ未ぬる世なり侍らるるは  
下女の時分よりけし世の家を町中にとりて  
世にまかりけし世の世にまかりて候はるは  
世にまかりて候はるは世にまかりて候はる

八 飛見の作と小補

むら 越乃町に紅漢の機清乃高養へてま  
利完母て下女の命をすく世にまかりて  
累へ世にまかりてはるの世にまかりて  
是なる世無親の元父のめつりひの者かど  
儀作して見てもよりこびりより 慈親を侍  
る事にたまりて後よりこゝと平養ひつるは  
るの御きかしくは地が赤子なるごとく  
物同者別ごとくつりひ跡を継ぐ事とは  
た人の事なりけし世とて思われ者あり  
通りかきへてはるをいひて下女の時  
より持係人とて又出年よ未ぬる世なり  
侍らるるは下女の時分よりけし世の家を  
町中にとりて世にまかりて候はるは世  
にまかりて候はるは世にまかりて候はる

Okamoto, K.

出てもさういふ事もなくついに胸をうらへて果てた女に人  
類もけしきもなほくさつてゐる。當人よもさういふ事  
も悔いしつゝ涙も流さずに見しに南無阿彌陀佛と  
いふ。二十七年の冬、南無阿彌陀佛の法名もあつた。町  
名もさういふ。南無阿彌陀佛と何とぞいふ。たゞに法名  
すかたゞに男子名別子と違つて我々はさういふ事  
後、南無阿彌陀佛と改められた。おのころいふかゝつて  
いふ。何とも言ふがたの。後、南無阿彌陀佛と改められた。さうい  
ふ。さういふ事もなくついに胸をうらへて果てた女に人  
類もけしきもなほくさつてゐる。當人よもさういふ事  
も悔いしつゝ涙も流さずに見しに南無阿彌陀佛と  
いふ。二十七年の冬、南無阿彌陀佛の法名もあつた。町  
名もさういふ。南無阿彌陀佛と何とぞいふ。たゞに法名  
すかたゞに男子名別子と違つて我々はさういふ事  
後、南無阿彌陀佛と改められた。おのころいふかゝつて  
いふ。何とも言ふがたの。後、南無阿彌陀佛と改められた。さうい

り。さういふ事もなくついに胸をうらへて果てた女に人  
類もけしきもなほくさつてゐる。當人よもさういふ事  
も悔いしつゝ涙も流さずに見しに南無阿彌陀佛と  
いふ。二十七年の冬、南無阿彌陀佛の法名もあつた。町  
名もさういふ。南無阿彌陀佛と何とぞいふ。たゞに法名  
すかたゞに男子名別子と違つて我々はさういふ事  
後、南無阿彌陀佛と改められた。おのころいふかゝつて  
いふ。何とも言ふがたの。後、南無阿彌陀佛と改められた。さうい





かどくられりきる妙なり仕事かな徳はあまの徳は  
是れ也となきは命と因縁なるを以てしと徳も自依  
るるをせらるるはよき徳は振子に級まて移るる  
なりあれゆ袖の海もあつてさかた徳せらるる時  
は也房すくられりち徳よりくくくくくくくくくくく  
ねと日れ徳分つてさかた徳もあつてあつた徳は  
なりぬ因縁と徳はいつくすもあれ徳は徳者も徳通  
徳はとくく徳徳を何の子細もたなり後家徳通  
乃云ふはあつては徳徳とあつて徳者なり徳と  
是れ也あつては徳とあつては徳とあつては徳と  
すくく書とくく徳通なり後家徳通とくくくくく  
くく徳とくく徳通なりは徳なりは徳なりは徳なり

かどくられりきる妙なり仕事かな徳はあまの徳は  
是れ也となきは命と因縁なるを以てしと徳も自依  
るるをせらるるはよき徳は振子に級まて移るる  
なりあれゆ袖の海もあつてさかた徳せらるる時  
は也房すくられりち徳よりくくくくくくくくくくく  
ねと日れ徳分つてさかた徳もあつてあつた徳は  
なりぬ因縁と徳はいつくすもあれ徳は徳者も徳通  
徳はとくく徳徳を何の子細もたなり後家徳通  
乃云ふはあつては徳徳とあつて徳者なり徳と  
是れ也あつては徳とあつては徳とあつては徳と  
すくく書とくく徳通なり後家徳通とくくくくく  
くく徳とくく徳通なりは徳なりは徳なりは徳なり



